

令和 8 年度第 2 回鉾田市総合計画審議会 議事録

日時：令和 8 年 8 月 27 日（木）

午後 2 時から

場所：鉾田市役所 2 階大会議室

1 開 会

2 会長挨拶

本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。今回は 2 回目の総合計画審議会ということで、次第にあります通り、市民意向調査の結果と第 3 次鉾田市総合計画の骨子案についてとなっております。特に骨子案については、たたき台ということですので、皆さんからの忌憚のないご意見をいただき、より良い計画にできればと思います。本日はどうぞよろしくお願い致します。

3 議 事

（１）市民意向調査の結果について（説明：事務局）

○会長：ただいまの事務局の説明に対し、質問や意見等あるか。

○委員：1 ページの調査方法で、回収率が 23.4%。執行部はこれで満足しているという報告があったが、全然少ないと思う。これで回収率が高いと言っている時点でおかしいのではないか。なぜこれが高いというのか理由をお聞かせいただきたい。また調査結果の（４）施策別の評価の中で、新たな移動手段を確保となっている。鉾田市ではスクールバスに年間 4 億円強を使っている。それ以外にデマンドに 2 億、7 億近くが出ているのだが、それ以外にも確保となると、予算等はどのように考えているのか。

→事務局：まず 1 点目のご質問の回収率については委員のおっしゃる通り。一般的なアンケートは 3 割くらいの回収率。こちらについては、事務局でも低いという評価をしている。先ほどご説明したのは統計学上の計算に基づく、2 割回収できれば傾向としての精度は 95%くらい、前後 7%弱くらいの確度があるということ。また 2 点目のお答えだが、市としてはスクールバスなど様々な子育て施策を行っており、相当な額をつぎ込んでいる。これが要望等に対する予算や施策に影響があるのかというご質問だと思う。鉾田市は教育環境や子育て環境について、近隣自治体に比べてかなり予算を取っているが、適切に評価に反映されていない。アピールや周知が足りないのではないかと感じている。

○委員：今お話があった子ども・子育てに関して、私も多くの子育て会議に出席させていただいているが、たくさんの施策を行っている。PR が足りないということもないと思う。では何の分野で何が薄いのか。例えばもっと充実した施設を求めているのか。その辺りをもっと細かく指摘していただければ、より良い子育ての関連事業ができるので、もっと細かく分析していただいた方がいいのではないかと。多くの予算をかけて、鉾田市は子どもに関しての施策をしていると私は感じている。分析をお願いしたい。

→事務局：ご指摘を踏まえ、分析を行ってまいりたい。一般的に鉾田市では、比較的ソフト面ではいろんな施策を打ち出している一方、ハード面では、例えば雨が降った時にお子さんを遊ばせる場所がないという状況がある。しっかり分析し、こういった施策が求められるのか研究したい。

○委員：まずアンケートについてだが、インセンティブを考えないといけない。娘のところにも来ていたが、回答したのかは不明。鉾田市総合計画でアンケートを行えば、普段言われていることが出てくる。こういったことは皆さん理解しているだろうが、一応取ったという形。このアンケートを取ったからと言って、都市部のように全て行うわけにはいかない。予算も限られているので、何でもできるわけではない。だが、都会にはない静かさなどがあるのだから、鉾田の独自性や地域性などを反映した総合計画にしていきたい。都会と同じようにすることが決していいことではない。鉾田市は 2,000 年以上前から人が住んでおり、いろんな歴史がある。最近では水運で栄え、茨城では水戸・土浦・鉾田と言われた時代もあった。さらに貝塚や埴輪などの宝がたくさん埋まっている。昔から人が住みやすいところだったと思う。ここに住めば食いつぱぐれがないという意味では特異性のある素晴らしい宝の場所。でも、そういうことは今の子どもには伝えられていない。なぜなら受験に出ないから。受験に出る教育だけに特化していると、大事な地域の宝を見失ってしまう。今の子どもは、鉾田には何もないと思っている。田舎で何もないので、都会に憧れる。だが、鉾田には宝がたくさんある。それを正しく伝えていない。それをこの総合計画に反映することができるかはわからないが、少なくともそういったものを感じさせるような総合計画を作ってほしい。そうでないと、どこでも同じようなもので名前だけ鉾田市というものになってしまう。これだけの方々のそれぞれ意見を本気になって聞いていただき、少しでも反映されている総合計画になっていただきたい。個人的には鉾田はすごいところだと思っている。年を重ねるほど、素晴らしさがだんだんわかってくる。ぜひともそういったものを反映していただきたい。すべてが満足するのは不可能。何に特化するのか考えていただきたい。

→事務局：ありがとうございます。しっかり鉾田らしさが打ち出せるように取り組んでまいりたい。ご協力をお願いします。

○委員：アンケートの年齢別の傾向、中年層で、外国人との生活ルールの問題がある。今後外国人へのアンケート調査も含まれると、データとして取れるのではないかと思ったので、ご意見させていただいた。

→事務局：確かに鉾田の特徴という点では、外国人の問題がある。アンケートにするのか、個別に話を聞くような形にするのか、研究してみたいと思う。

○委員：ソーラーパネルの設置について話が出ている。これも含まれるが、森林伐採。山の木を切る時に、前は 1 町歩だったのが今 5 反分に戻った。先に伐採し、市役所から問い合わせがあってから届けを出してもいいというのは、おかしいのではないか。ソーラーパネルを設置する時は森林を伐採してしまう。去年から森林環境税として、皆さん 1,000 円ずつ引かれているのは分かっていると思う。これは森林を保護するために国で税金を取っている。それも踏まえて政策を作っていかなければならない。国も県もやっているが、市も独自にやらなくてはならない。鉾田市は森林法の地域がとても多い。これを踏まえ、どういう対策を取っているのかが問題。さらに自然環境という点では PFAS が問題になっている。

これは 40 年前、旭・鉾田・大洋の時代に産業廃棄物を埋めたところ。そこから出ているのが PFAS。土地採集や産廃の条例はあるが、罰則規定はない。罰則規定を作らないと業者は捨ててしまう。去年も勝手に土を捨てて市役所に届けがないということがあった。市役所に行っても知らないと言われることもある。警察と相談して、きちっとした対応をしていかないと、どんどん捨てられてしまう。そこまで含めた検討をしていかないと、自然環境を守れない。議会も議員さんも勉強していただき、それも含めた政策をやっていただきたい。よろしくお願いします。

→事務局：自然環境が鉾田市にとって非常に重要な問題であるという認識は持っている。この後の骨子のたたき台の中で、自然環境について触れさせていただくが、取り組むべき重要な課題。個別の事業の内容について、総合計画で触れることは難しいが、担当課にご意見を伝えさせていただく。

○会長：その他ご意見はいかがか。では次の項目に移る。

（２）第３次鉾田市総合計画骨子案（たたき台）について（説明：事務局）

○会長：ただ今の事務局の説明に対し、ご意見等あるか。

○委員：鉾田の特性を考えると、基本戦略３の防災に対する対応力と復興力の充実。茨城全体がそうだが、比較的広い土地があり、そこにスカスカの状態でご々は住んでいる。スカスカの状態というのは都市部に比べて、圧倒的に災害に強い。隣で火事になっても、遠ければ延焼はしない。密集していないということが一つのメリット。災害が少ないということをもっと強調するような形にしていきたいと思います。空気も都市部の空気とは全然ちがう。我々はこれが普通で当たり前だから何も感じていない。自然環境がいいと先ほども出ていたが、災害にもとても強く、何かあった時は最後まで生き残るところ。食べ物も作っている。それをもっと強調して、少しでもいいところだと思ってもらえるような総合計画にしてほしい。

→事務局：盛り込み方は事務局にお任せいただくとして、必要な視点ということで、ご意見を承りたい。

○委員：７番の基本戦略についてお話させていただく。全部お話すると時間がかかってしまうので、要点だけお聞きしたい。結婚支援や子育て支援の強化はもう何年もやっている。これまでもやっているのに取組の柱というのはおかしいのではないか。知り合いの結婚したお嫁さんから、鉾田市はこういうものしかくれない、他の町はこうだという話を何度も相談されて言われたことがある。この出産支援の充実というのは充実していないからそういう話になる。だがこれはもともとやっている事業。何年も前から言っているが、ここに載せている時点でちょっと違うのではないか。さらに、基本戦略２の農業関係で６次産業化の推進がある。これも何年も前から行っているが、全然進んでいない。執行部は本気でやる気があるのか。絵に描いた餅のような骨格を作っているが、本当にできるのか。もう少し本気を出して、きちっとした骨格を作っていただきたいかった。見た時にがっかりした。もう少し具体的に、これならば鉾田市がやっていけるといえるものを、骨格として出していただきたいかった。

→事務局：目指すべきものはもともとあるべきもので、現在もできていないという厳しいご指摘も、まさしくおっしゃる通り。総合計画については、鉾田の最上位計画。目指すべきゴールが非常に高い山の頂上にあるような計画にはなってしまうが、そこに向けて何とか進んでいきたいというこの思いも、この総合計画に表したいと思っている。個別の施策などを変え

ても、必ずできるという担保はないが、職員や市民の皆さんがここを目指して頑張っていく道標のようなものになればと考えている。

- 委員：先ほども話が出たが、災害に対する対応力について。今までやってきたが、これからは自助の時代。自分の命は自分で守るという考え方を持っていただく。先日の大雨の際に千葉県で起きたことも、行かなければ被害に遭わなかった。そういったことを教えてあげることも大切ではないか。災害対策もお金がかかる。それをなるべく減らすためには自助、自分の命は自分で守るという方向性が今からは必要ではないかと思う。お願いしたい。

→事務局：自助は災害のみならず、行政全般における、これからの重要なテーマだと思っている。盛り込み方は、事務方にお任せいただくが、承りたいと思う。

- 委員：私はここに第2次計画の前期と後期の冊子を持っているが、これをどれだけの市民の皆さんがご覧いただいたか、あるいは市役所の職員がご覧いただいて、自分の仕事のバイブルとしてお使いいただいているかを気にしている。来年の3月にこの策定委員会が終わるが、その後市民の皆さんにこの計画内容をお知らせすることになる。前回もお話したが、まず、職員の皆さんには、自分たちの課でやっている自分の仕事は第3次総合計画の何にあたるのか、この仕事を行うにあたっての課題は何か、どういうことを目標としているのかをしっかりと把握していただきたい。そのような研修会を開いていただきたい。前回も申し上げたが、今回も申し上げたい。また、市民の皆さんへの周知については、市民一人一人に総合計画の冊子を配ることはできない。そこで今小中学校で学校のグラウンドプラン、大きな全体像を示したものをどこの校長室にも貼ってあると思う。そういったものをぜひご家庭に一枚貼っていただく。A3版くらいでも、その倍くらいでもいいが、それを貼っていただく。そうすると、10年後の銚田市はこのようになる、こういうことを目指しているということがわかる。できれば簡単なイラストでも入れていただく。そうすれば銚田市はこのようなことをやるという事がわかるのではないか。気が早いが、職員の研修と市民への周知について、今のうちから考えていただけるとありがたい。

→事務局：研修会については、第1回委員会でご指摘いただき、早速若手を中心に課題の整理という作業を行った。また市民への周知については、この総合計画が市の最上位計画で、職員はもちろん、市民の皆様にも、10年後の銚田市はこういうものを目指しているということが分かりやすいような工夫を考えていきたい。

- 会長：その他、ご意見、ご質問等あるか。よろしいか。では、今回の骨子案についてはたたき台なので、本日出た検討を踏まえて、事務局で引き続き精査していただくということで、ご異議はないか。それでは、このようにお願いしたい。

4. その他

5. 閉 会

以上